

## 特集

# OM 初 勉強会 in やまがた

2009年10月17日(土)～18日(日)の2日間、山形市を会場に、東北まちづくりオフサイトミーティング(OM)の記念すべき第1回目の勉強会をはじめとする一大イベントが開催された。

6月にキックオフミーティングを開催してからわずか4ヶ月。東北初の自治体有志職員で発足したOMの勢いは東北6県を巻き込むようとしている。何がここまで挙き立てるのか…。編集部は危険を顧みずその渦に飛び込んだ！！！

## Round 1

農林水産省大臣官房政策課

### 木村俊昭氏講演会

#### 『地域活性化の動向』

##### 産業文化を地域から発信したい！

小中高と、オホーツク海沿岸の遠軽町で過ごした。高校時代に行政職員になりたいという思いから、大学進学を決意。大学では2人の先生から法律と都市政策を学んだ。大学4年時に公務員試験を受験しようと、地元の遠軽町に問い合わせたところ「大卒は採らない」という回答。そこで、幼い頃からよく遊びに行った小樽市の採用試験を受験、合格し、昭和59年に入庁。財政部納税課に配属となり、私の公務員人生がスタートした。

大学時、私が公務員になつたらやりたいことが2つあった。

①産業文化を地域から発信する。②未来の担い手である子どもたちに地域への愛着心を持たせたい、そんな子どもたちを育てたい。

そんな思いから入庁後、課長に相談。「市の観光振興について提案したいので、部長会議に出席させてください。」

##### 地域資源を未来に伝承したい！

入庁から2年後、上司から言っていた「レール」から途中下車。議会事務局へ異動となり、その後、企画部、総務部(秘書課)、平成8年からは経済部、産業振興課、企画政策室を経て、内閣官房へ。

平成8年、経済部に異動した際、5ヶ年計画で「職人展」を企画した。

「まちの地域資源って何だろう」と考えたとき、当時、小樽には32名の職人(一人親方)がいたが、この方々の技(地域資源)を未来に伝承させたいという思いから企画したもの。しかし、初年度に参加していただけたのは32名の職人のうち7名のみ。正直、恥ずかしかった。

しかし、2年目以降、行政と地域との信頼関係を少しずつ構築し、行政主導から地域による実行委員会へ移行。平成13年からはNPO主体による展示会の実施に至った。

この5ヶ年計画の2年目から製作体験工房の取組みを組み込んでいた。これにより、多くの小中学生が職人の技にふれあえる機会をつくることができる。また、体験料をいただくことで、職人たちの所得につながる仕組みが必要だったからだ。



##### 地域への愛着を持たせる仕組み、設計が重要！

別企画で「キッズベンチャー塾」を実施した。これは小学5、6年生を対象に1チーム5人編成で、ものづくりから販売までの一連作業を行う中で、製作・金融の仕組み・PR戦略・販売手法など、それぞれ必要なノウハウを持つ地域の方々とのふれあいから学び、実践したという事例である。さらには、この企画書をテレビ局に持ちかけ、一連の工程を取材・放映してもらい、インパクトを与えることができた。

手間はかかるが、ほとんど予算はかかるべくない。ほぼ、参加者からの参加料で賄つたのだから。

この企画を通して、子どもたちと地域との関わりの場をつくりながら、さらに地域へ愛着を持たせるという仕組みをつくることができたと思っている。

単発な形ではなく、いかに関連づけていくか、その設計が重要である。多くの方々の関わりを持たせ、地域への愛着につなげていく仕組みをどうつくりあげていけるのか。

地域に住む方々自身が問題意識を持ったり、関わりを持つ機会をつくっていくということが、地域活性化の取組みの中で非常に重要なと思っている。そういう思いで携わってきた。





## 部分最適から全体的な最適化へ！

中心市街地の活性化、企業誘致など、様々な課題に対する各種政策、支援策などをよく考えたとき、利よりも害が多くなる政策を講じていないだろうか。

例えば、中心市街地の活性化対策として、空き店舗入居者に対する家賃補助を講じたとする。この補助金を止めたら、入居者はどうするだろう。間違いなく撤退するでしょう。

地域の活性化を考えた場合、空き店舗の解消だけに目を向けた単発的な政策を打ったとして、それが売上に伸びない、伸びなければ、当然、所得も上がらない。となれば当然、撤退していくという流れになってしまう。

そもそもなぜ、この市街地にお客が来なくなったのかという、そもそもの課題整理がされていない。

空き店舗の解消策だけでは、部分的な最適化にしかならない。部分最適に目を向けた政策をいくら打っても、地域全体に波及するものがなければあまり意味のない政策になってしまいます。

重要なのは、この政策を打つことによって、どれだけ地域全体の所得向上など、全体的な最適化につなげられるかではないか。

地域の人口規模は？世帯構成は？など地域条件を踏まえた中で、今ある主たる産業をどんな形で強くしていくのか。また、地域の将来を見据え、どんな新たな産業や業を興すのかというところを含めて考えた場合、地域の中でどんな「人財」が求められているのかという問題が捉えられていないのではないか。

地域の課題・問題を着実に捉え、全体最適につなげるために、どう設計していくのか、デザインしていくのかが問われているのではないか。

そのためにも、何かしら全体への関連づけを考えた政策、どれだけ全体にインパクトを与える政策か、そのあたりをしっかりと考えないと、ものすごく効率の悪い政策になってしまう恐がある。極端に言うと、税金だけ投入して全体的な景気が落ち込むという事態が発生してしまう。



## 地域活性化システム論 -地域と大学の連携-

平成18年度から行ってきたのが、地域再生システム論。(21年度から地域活性化システム論)

いわゆる地域の大学を「地域固有の知の拠点」と位置づけ、地域課題を産学官一体となって考える“場”として、平成18年度の北陸先端科学技術大学院大学での講義を契機に20年度までに25大学で展開されてきている。

地域活性化の効果的な事業を展開していくため、地域活性学会を平成20年12月に設立した。この学会は、通常、政策提案したり、様々な事例を分析・研究発表する場としての位置づけであり、ここで提言された政策を具体的にどう展開していくのか、地域の全体的な最適化に向けて、地域の皆さんのが主体となって地域づくりを行うためのコーディネート機能として地域活性化機構がその役割を担うという仕組みを構築した。



## 地域を継続進化させるシステムデザイン

ひとつ事例を紹介すると、豊後高田市は人口が約25000人、世帯数が10000世帯ぐらいの市。

8年前、年間、約27000人の観光客の集客があり、これに特に問題意識は持てなかつたが、将来のまちづくりのビジョンを考えた場合に、このまちは農業で食べていくのか、それともサービス産業で食べていくのか、いったい何で生計を立てていくのだ？…という議論の中から、まちづくりの方向性として、「昭和30年代の町づくり」を目指して、一体的に取り組むことになった。

その結果、現在、年間38万人の観光客を来るようになった。今後、さらに集客や人口の増を目指す中で、魅力あるまちづくりと農業分野も含めた全体的な所得向上とをどう関連づけていくかが重要になってくる。いわゆる限りなく全体的な最適化にどうつなげていくかがキーワードになってくる。

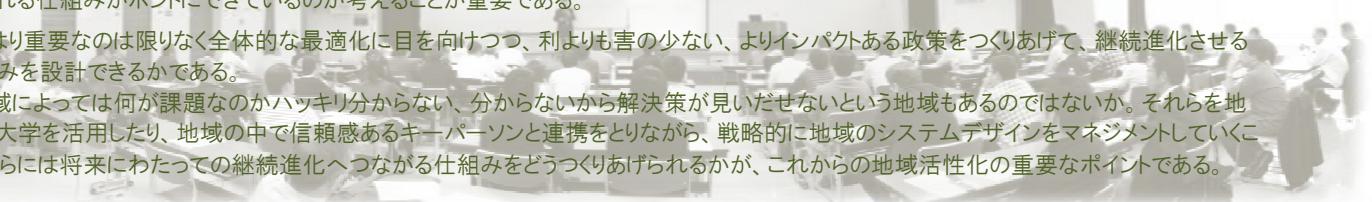
また、小豆島のオリーブ振興特区については、昭和21年には63000人いた人口が、平成21年には32000人になっている。

昭和21年には、塩を作て生計を立てていたが、現在は、オリーブや塩の技術を使って醤油、そうめんなどで生計を立てている。ただし、ここで考えなければならないのは、今ある産業だけで将来的に島全体の32000人の生計が成り立つか。将来にわたっての“継続進化”を図れる仕組みがホントにできているのか考えることが重要である。



やはり重要なのは限りなく全体的な最適化に目を向つつ、利よりも害の少ない、よりインパクトある政策をつくりあげて、継続進化させる仕組みを設計できるかである。

地域によっては何が課題なのかハッキリ分からぬ、分からぬから解決策が見いだせないという地域もあるのではないか。それらを地域の大学を活用したり、地域の中で信頼感あるキーパーソンと連携をとりながら、戦略的に地域のシステムデザインをマネジメントしていくこと、さらには将来にわたっての継続進化へつながる仕組みをどうつくりあげられるかが、これから地域活性化の重要なポイントである。



講演会終了後、木村さんを囲み、「地域活性化とは? 農商工連携とは? そのような取組みを行う中で市民・行政・公務員の役割とは?」を大きなテーマとして、OMメンバーとの意見交換会がおこなわれました。

限られた時間ではありましたが、それぞれのテーマに沿った日頃感じている疑問や悩みに対し、事例などをもとに的確なアドバイスやヒントをいただきました。と同時にこれから携わっていく私たちへの力強いメッセージをいただいたように思えました。

あなたは、今回の講演会・意見交換会を通して、何を感じましたか…



#### 行政マンは“つなぐ人”

北上市 高橋 直子さん

はじめてお会いした、何のフィルターも通さない木村さん。

テレビや雑誌で拝見するよりも、100倍パワフル。

ご自身の経歴のくだりには目を丸くすること多々でしたが、数々の現場経験に基づくお話は、説得力がありました。

私が最も印象的だったのは、“部分最適化”と“全体最適化”について。

“部分最適化のくりかえし=全体最適化”ではないということに改めて気づかされました。

地域の課題解決のためには、対症療法のくりかえしではなく、全体最適化の戦略がなければ課題の根本的解決にはならないー。

当たり前のことですが、このロジックは、どんなしきみをつくるときにも、土台に据えねばならないと思いました。

当たり前のことを当たり前に行う。それが一番難しいことかもしれません。

人と人をつなぐ、人と地域をつなぐ、地域と地域をつなぐ。

いまの時代、私たちに一番求められているのは“つなぐ力”なのではないでしょうか。



#### 北上市 佐藤 美和子さん

こんにちは! 北上の佐藤です。山形の勉強会ではお世話になりました。どうもありがとうございます。木村先生の講演会で学んだこと

“広い視点を持ち、害よりも利を多く与えること”  
“子どもたちに地域への愛着心をもってもらうこと”  
“遊び心も忘れずに”  
“関係者にやる気を起こさせるような刺激を与えること”等、目からうろこが落ちることが何度もあった時間でした。

また、地域を活性化するために、高齢者福祉の分野で仕事をしている自分には何ができるか。

- 高齢者に元気でいてもらうこと、生活にハリをもってもらうこと。
- 高齢者を介護する家族に過剰な負担がかからないように支援すること。
- 地域で高齢者を支える仕組みを作ること。

上記が欠けていれば、地域への活動に市民が参加することは困難になります。

地域を活性化するための土台づくり、生活支援をお手伝いしていきたいと思います。

#### 栗原市 高橋 千穂さん

10月17日、OM勉強会初参加。

講師の「木村俊昭」さんは、NHKのプロフェッショナル仕事の流儀で見たときから、気になっていた。話を聞いてみたいな。。。とは思っていたけど、実現するとは思っていなかった。

**It's so fantastic! Dream Come True.**願えばかなうということかな。

結果、木村さんの勢いに気圧されっぱなし(苦笑)。私が印象に残ったフレーズは「産業文化(産業文化?、産業・文化?)は、地域から発信」「未来の担い手の子どもたちを巻き込む」「モチベーションを高く、楽しくする」の3つ。これを今の自分の仕事に当てはめると…「市民歌を栗原から発信(どこへ?)」「子どもたちを巻き込んだ市民歌の普及」「完成発表会に向けて、モチベーション、っていうかテンション高く、空元気でも楽しく」うへん、深い。日々是精進。

この場を借りて、お話を聞いてみたい人リクエスト。サムライのクリエイティブディレクター佐藤可士和氏とマネージャー佐藤悦子氏夫妻。特に佐藤悦子さん、一度お話を聞きたいです。



番外編

あいだの視点  
...Lock on

ちょっとここでアイスブレイク。

キャメラマン曾田くんが、こつそり皆さんの中の色々な表情や瞬間を激写していました。

皆さんの声が今にも聴こえてきそうです♪



.....見つめ合う ふ・た・り ❤



小田さん、ホントにボランティアフェスティバルのPR？？



北上市の3人にロックオン！ .....げげっ、バレた！（恐るべし、佐々木氏）



ファシリテーター後藤！！



おっと、W奥山さん、発見！！



無謀とも思えた あなたの一言から始まったんですね…

Round 3

# 懇親会 in 川なり

特集 OM 勉強会 in やまがた

木村俊昭さんの講演会＆意見交換会の興奮も冷めやらぬまま、市内某料亭「川なり」での懇親会。

会場では、用意された席がアツという間にすべて埋め尽くされ、カウンターにまで溢れ出るほど…。

OMメンバーだけでなく、山形市内で農商工連携に取り組む方々から、関東圏内の自主勉強サークル「ノンパ」のメンバーまで。

初めて出会う方々が多数のはずなのに、それすら忘れてしまうほど、会場は多いに盛り上がっておりました。(恐るべしOM！)

また、木村さんと直に語り合い、酒を酌み交わす中で、講演会とは一味もふた味も違う気づきがあったのではないかでしょうか。

それにしても、皆さん、いい顔してましたよ！



↑ 決して奥山さんを笑っているではありません！



↑ 目がかわいいんだよね、あきらくん！



みなさんこんにちは。  
山形市企画調整部  
企画調整課の  
奥山敏行と申します。

このたび、OM勉強会の懇親会・二次会に特化したコメント担当ということで、栗原市の鈴木さんがサイコロを振った結果、見事？私が当選したわけですが、川なりでの懇親会では、実は、靴を脱いでおらず、つまり、座敷に上がっていないので状況がよくわかりません。

私は、カウンターでさびしく(シブく)グラスを傾けながら飲んでいたわけですが、各々他市の皆さんとの会話や名刺交換等しながら盛り上がったと伺っております。私の脇で、山形市の小田君は、ちやっかり自分の落語のPRをしておりました。

(11月8日(日)9:30～ 酒田市総合文化センターで開催される酒田市ボランティアフェスティバルにて落語をします。都合のつく方は聞いてあげてください。)

最後に、山形市の會田君の花笠締めフルバージョンにより、お開きとなりました。

次に、山形市の後藤君のいきつけである“わらべ”での二次会でありますが、栗原市の鈴木さんの司会のもと、大変な盛り上がりでしたが、私は、翌日朝が早いので、早々に途中で帰りました。

その後の状況はどのようなものだったのでしょうか……？？？

みなさん、こんな報告ですみません。



見分けづらいのですが、右が奥山さん↑

Round 4

# 2 次 会 in わらべ

懇親会を終えたのにもかかわらず、メンバーは更にヒートアップ☆後藤さんの“なじみ”的「わらべ」にOMメンバーが集結しました。

ここで、同行キャメラマンが力尽き、取材続行不可能になってしまいました。

明日はいつも煮会だというのに、この方々のパワーはどこから湧いてくるのでしょうか？

パワーの源泉をいつかつきとめたいと思いつつ、取材1日目がアツという間に終了してしまいました。



↑ いつの間にツーショット…さすがゾンバの刺客・Yanagisawa！



↑ 小田さん、やっぱり落語のPRしてますよね！（松永さんの表情で分かります！）



↑ そんな松永さんを見る…



↑ そんな松永さんを見る…



↑ そんな松永さんを見る…



↑ 小田さんから解放された顔（笑）



↑ そんな松永さんはほつとい…



↑ そんな松永さんは置いとい…



栗原市  
山中英晃さん



**OMの皆さん、10月17日～18日の両日は大変お世話になりました。**

栗原市役所企画部市民協働課の山中と申します。

おっとりマイペースな27歳です。

私からは、懇親会・二次会に

特化したコメントということで

述べさせて頂きます。

まず、懇親会の「かわなり」ですが、

お店はこじんまりしていて趣がありました。

そこにあの大人数でしたから、相当な熱気に包まれていましたね。その中で様々な自治体、団体の方々と交流できたことは大変貴重な経験になりました。

次に二次会の「わらべ」です。私は、借越ながら栗原市の「わがまち自慢」をさせて頂きました。

陳腐な内容で恥ずかしかったのですが、その内容を調べるため様々な資料やパンフレットを見て大変勉強になったのと、自分自身「わがまち」を知らないというのを実感しました。

今後は、内容の濃いわがまち自慢ができるよう努力していきたいと思います。

翌18日(日)、馬見ヶ崎川河畔を会場に、今回のイベントのフィナーレを飾るべく、山形の秋の風物詩「いも煮会」が行われました。  
好天の下、山形市の女性陣を中心に出来上がった醤油ベースのいも煮の味も絶品！  
美味しいものを食べるときは、やっぱり自然に笑顔になっちゃいますね♪  
そんな絶品のいも煮を片手に、楽しく語らい、互いの親睦が更に深まりましたよね。

## FINAL Round

# 大いも煮会



↑いも煮もお酒も大満足！！(…一部を除きます。)



↑これぐらい美味しい“いも煮”でした！



早苗さん、固まっていますよ！(笑)↑



↑美味しいものを食べるときの顔！



わたしの  
コメント！

## 番外編 part2

### 銘酒 テイスティング

いも煮会場の一角で、ひっそりと始まった銘酒のテイスティング大会。

地元山形の銘酒を中心に次々と出される銘酒、銘酒、銘酒！  
帰りの運転で、残念にも手も足も出せないメンバーをいじり倒しながら、  
芳醇な味わいを堪能させていただきました。♪(OMニュースレター編集部)



山形市 佐藤 いずみ

木村氏講演会の翌日、山形市の  
馬見ヶ崎川河畔にて『大芋煮会』が  
開催されました。

山形の秋といえば、『芋煮会』！ノンバメンバーの方が河原で  
芋煮会をしている大勢の山形人を見てビックリしていることに、  
逆にビックリしました(笑)  
芋煮を食べていたら、OM  
メンバーで『ご当地芋煮』の  
話になったのでご紹介します。

山形：醤油味！具は里芋、牛肉、まいたけ、ゴボウ、こんにゃく、  
ネギ等

酒田：味噌味！具は里芋、豚肉、しめじ、人参、ゴボウ、こんにゃく、  
厚揚げ、ネギ等。

北上：醤油味！具は里芋、鳥肉、まいたけ、大根、人参、こんにゃく、  
ネギ等。味噌味、ブレンド味もあるらしい！

栗原：味噌味！具は里芋、豚肉、人参、しいたけ、エノキ、  
こんにゃく、ネギ等。

地域によって、醤油or味噌、牛肉or豚肉or鶏肉、が大きな違い  
のようですね。

今度また芋煮会をする時は、OMメンバーが各地域の芋煮を作って、『食べ比べ』なんて楽しそうですよね？

## わたしの コメント！



新日本有限席監査法人  
福島事務所 スタッフ  
松田卓也と申します。

先日のOM勉強会inやまがたでは大変お世話になりました。

OMの勉強会には初参加だったのですが、メンバーの皆さんに暖かく迎え入れていただいて、大変感謝しております。

OM勉強会inやまがたの2日目に行われました「いも煮会」の思い出といえば、やはり栗原市の鈴木敬さんに大変かわいがっていただいたことの他にありません。

いも煮会会場の片隅でお昼過ぎから行われました「日本酒テイスティング大会」。私が車の運転のためお酒を飲めないという状況の中、栗原市の鈴木さんは各地から集まってきた銘酒を私の目を見ながら、これ以上にない笑顔で飲み進め、一言「芳醇な香りだあ～」。。。おもしろくありません！！

親睦を深めるはずの「いも煮会」で私と鈴木さんの関係はギクシャクしたものとなりました。ですが、こんな冗談も言える仲間と出逢えたことに感謝しております。

最後に、いも煮会の場所取りから差し入れまで、山形市の後藤さんのお母様には大変お世話になりました。ありがとうございました。



↑亀裂が生じた瞬間…



↑BBQ班の面々！



↑いも煮のニュースタイル！  
思わず失笑(?)する松田くん



↑前日の飲み過ぎも  
何のその！



↑火おこし名人 加藤師匠。(技の伝承を賜わりました。)

みなさんはじめまして！  
八王子市税務部税制課の柳沢です！  
今回、首都圏で活動するNon-Purpose  
～首都圏のWA(ノンパ)のメンバーとして  
参加させていただきました。

芋煮会…ああ、この甘美な響き。  
しかし、今回のこのすばらしい経験がなければ、芋煮会のすばらしさを知ることはなかつたのです。

今考えると、山形に行かなかつたら人生の楽しみの一つを知らないまま死んでいくところだったのです。(ここまで大げさ)

さて、そろそろ冷静に…

実は、今回、初体験するまで芋煮会というと、とてもない大鍋で重機を使って調理する、あの芋煮のイベントの事だと思っていました。

しかし、山形の河原ではたくさんの人たちが、あちこちで煙をあげて芋を煮ている！そしてひたすら喰ってる！

なんというワnderーランド！家族の、友人たちの、恋人たちの幸せイベントではないですか。もう、テンションはあがりっぱなし。

「オラ、ワクワクしてきたぞ」状態です。

火起こしを手伝わせていただき、ひたすら扇ぎ、出来上がった芋煮を一口、旨い！

バーベキューも続々と焼きあがり、こちらも旨い！

そして何より、東北のあちこちから持ち込まれる日本酒。これを片っ端から呑む、呑む、呑む！なんて幸せなんだろう。

屋外でさわやかに芋煮を食べ、地元の銘酒に舌鼓を打つ。そして、すばらしい人たちとの出会い！

今まで東北といえば、蔵王温泉スキー場くらいしか縁がありませんでしたが、一発で東北ファンになってしまいました。

ここまで文章を書いてきて、一抹の不安。東北の皆さんの大切な会のニュースレターにこのアホ文章が載る…まさか、今後東北に出入り禁止なんて事はないですよね！？

東北の皆さんは温かいから、きっと大丈夫！うん、きっと大丈夫…。



↑編集部イチオシのイケメン、かずしろくン！





## 総括！ 山形市 後藤 好邦

みなさん、『勉強会 in やまがた』、大変お疲れ様でした。今回の勉強会いかがだったでしょうか。  
私は、正直、無事に終了して、ホッとしているところです。(木村さんが改札口にあらわれるまでは、本当に来ていただけるのか、かなり不安でした。)  
さて、今回の勉強会を総括すると、OMにとって2つの大きな収穫があったと感じています。

### ①(木村俊昭氏の講演により) OMメンバーの知識、意識、そしてモチベーションの向上

木村さんの講演は、参加した一人ひとりの心に響き、さらに、MLでの報告を通して、参加できなかったメンバーの心にも響いたと思います。テレビ出演した際に、木村さんは「ばか者がうねりを起こす」とおっしゃっていましたが、今回の勉強会を機に、OMが各地域でうねりを起こす「ばか者」を生み出す“虎の穴”になってほしいと考えています。(←ちょっと古い例えですが…)

### ②(懇親会・いも煮会により) 新たなネットワークの創出と信頼関係の強化

今回の勉強会を通して、OMメンバー間、あるいはOMと他の団体(ノンパや西山形地区の方々)との新たなネットワーク(絆)があちらこちらで築かれました。

私が知る限りでも、鈴木さん@栗原市と松田さん@福島市の酒にまつわる新たな絆(因縁)や、鈴木さん@福島市と北上軍團との「変態」にまつわる絆、高橋くん@山形市と西山形地区の方々との酒造りにまつわる絆など、たくさん絆が生まれております。

新たな絆は、新たな刺激を生み、さらに新たな成果を生み出す原動力となっていきます。今回築かれたいろいろな絆という種が、今後、どのような花を咲かせ、実となるか…今後、楽しみに見ていきたいと思います。

最後に、我がOMは、イベントを重ねることに、質量ともにパワーアップしています。

今後もメンバー相互の信頼関係を強化し、東北にOMありと言われるような自主勉強グループにしていきましょう。

**OM  
mini Ben &  
Konshinkai**

to be >>>  
Mini Ben&Konshinkai  
in Miyagi NPO Plaza

2009. 12. 5 Sat

◇Mini Ben  
14:00~17:00 Miyagi NPO Plaza  
◇Konshinkai  
17:30~...endless!!

いざ、出陣！



# OMの素材

OMの”素”である会員皆さんのお自己紹介コーナーです。  
素晴らしいOMの素材が調和したとき、どのようなハーモニーが  
奏でられるのでしょうか。

ちょっととした隠し味も見つかるかもしれませんね☆



## Nº8 後藤 幸生

**Yukio Goto**

とし:36歳

所属:北上市 建設部 都市計画課

都市整備係

経歴:H13 道路維持課

H17 資産税課

H20都市計画課

趣味:・山登りやキャンプなどアウトドア  
一般。今年から始めたシーカヤック  
はあまり疲れず(年なので)自然を  
堪能できるのではまっています

(海辺で飲むコーヒーは最高にうまい!)。

・アメフト観戦が大好き! 和モノ(関西学生リーグ)や洋モノ(NFL)大好き!  
・立ち読み(雑誌からハードブックまで2~3時間は読みます)

一言;入庁してまだ9年目のピチピチおやじですが、態度だけは部長級といわれてはや数年。口癖は「しゃーない」とあきらめの言葉が使われるようになり、OMに参加してモチベーションを上げないと感じている今日この頃…

写真;去年娘の幼稚園の改善運動で登場したシーン。当初は腰みのなしで何度か登場していたが、マダム達に強烈すぎる(どこが?)と指摘され、先生に着用して隠すようにと指導を受けてしまった(今回の写真にも写らないようにしました)。



## Nº49 奥山 早苗

**Sanae Okuyama**

◆所属

山形市健康福祉部健康課管理係 主任

◆経歴

山形市立商業高等学校にて実習教諭として3年勤務

総務部職員課人事研修係にて4年間職員研修を担当

現在、健康福祉部健康課管理係5年目に突入

◆好きなもの

◇韓国ドラマ(基本的にテレビっ子です。)

私のおススメは「コーヒープリンス1号店」です。

◇編み物(冬限定・かぎ針編み)

冬になると「毛糸の帽子」を編みまくります。(ストレス解消!!)

◇ウォーキング

はじめて2ヶ月ですが、相方(夫)のメタボリック解消で歩いています。

悩みは、体重が減らず、筋力がアップしていることですか…なぜ???

◇飲む・食べる

お酒(種類は日本酒・ワイン・マッコリ……)なんでもいけます。

お菓子の「〇〇限定」「新作」に弱い。食べるものにはお金をかけます。

◇ひとこと

後藤さんの甘い言葉に誘われ「はながさ☆ぐらんぱり」の実行委員になりました。ふと気付くと4年…、お祭り好きの私です。

最近は、ある女性だけのワーキンググループ(仕事です)で、そばの試食会を行いました。メニュー・味・価格等の審査をするのですが、そば6種類にサイドメニュー11種類の試食、さすがの私もギブアップ。美味しい仕事ですが、大食い大会をしているようで…適量が一番ですね。

こんな感じで、いろんなことに首を突っ込んでいる私ですが、OMの活動は「楽しく」「刺激的に」「出会いを大切に」をモットーに、みなさんと交流していきたいと思っていますので、よろしくお願ひいたします。

## Nº37 柿崎 則子

**Noriko Kakizaki**



所属:酒田市 職員課付けです。

経歴:H14年 山形県松山町役場

入所。総務企画課⇒H15年

出納室⇒H17年11月 合併により

酒田市に。会計課⇒H21年職員課

付け 東北公益文科大学大学院

派遣。8年目です。

好きなこと:飲み会! 最近はお酒

飲まなくても、楽しめるようになってきました。でも、12時近くなってくると、動きが止まっています。

最近面白くなってきたこと:地元の伝統芸能「松山能」の舞台に去年から上がらせてもらえるようになったのですが、出会ってから20年、やっと狂言の面白さに気づき始めました。(狂言のお話は元々面白いんですよ!)

観にきてくださる方にはまだまだ伝えられていないのですが、今度の一月も出る予定なので、頑張ります!!

OMへ:OMのメンバーは、地域や組織を動かすために一生懸命だ! と10月の勉強会では感じました。

目標すべき人たちが見えていることこそ何よりの栄養剤です。

酒田市では、松永さんに続き「チャッカマン」(人の意味)なれるよう、OMの活動を楽しみたいと思います。

*End roll*

今回、OM勉強会の特集号として発行しましたが、いかがだったでしょうか?

今回も90面サイコロに当選された方々(なぜか八王子の柳沢さんまで☆)のご協力のもと、良い作品に仕上がった!と自画自賛しています(笑)

充実した寝不足感に一人浸ってます☆

今回の勉強会、ホントに素晴らしいものになりましたよね!ここには書ききれないぐらい、それぞれが感じたことやドラマが場面・場面に散りばめられていたんじゃないでしょうか。

しかし、和美さんの一言から、これだけのイベントにつながったんですよねえ…。すごいことだなあとつくづく思います。

仲間が一つの方向・目標に向かって進むとき、すごいパワーが生まれるんだなあと改めて実感しました。

これからも更に絆を深めながら、楽しく活動していきたいと強く思います。

次回は仙台でのミニ勉強会&懇親会です☆

また皆さんに再会&新たな出会いを楽しみにしています!